

VOICE

Volunteers Of International Communication & Exchange

発行日 2021年3月31日
 発行 熊本県国際協会
 〒862-8570
 熊本市中央区水前寺6丁目18-1
 県庁本館 7階
 TEL 096-385-4488
 FAX 096-277-7005
 E-mail kuma-koku@cup.ocn.ne.jp
 ホームページ <http://www.kuma-koku.jp/>

熊本県外国人サポートセンターの取組みについて

当協会では、熊本県の委託事業として、令和元年（2019年）9月2日から「熊本県外国人サポートセンター」を開設し、在住外国人の方々からの生活全般に関する相談に対応しています。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い入国制限が行われる中、本県における外国人人口は17,803人（R2.6末時点、法務省在留外国人統計より）であり、昨年末よりやや減少していますが、サポートセンターに寄せられる相談は月平均約40件と開設当初に比べて徐々に増加しています。

4月以降、来庁による相談が困難な時期が続きましたが、FacebookのMessenger等のSNSを通じた相談が増加しているところです。

国籍別にみると、特にベトナムの方々からの相談が増加しています。県内でも、在留外国人数のうち、国籍別でベトナムが3分の1を占めていることから、今後もベトナムの方々からの相談は増えていくことが推察されます。

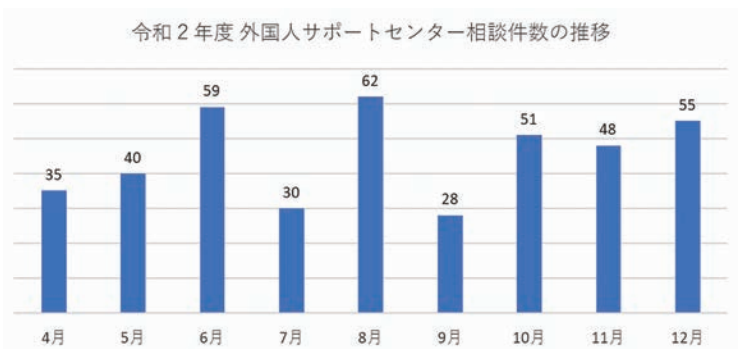
相談内容別では、雇用・労働に係る相談が多くなっています。技能実習の実習先に関する相談や、就職先についての問合せが多いですが、当センターで就職先のあっせんは出来ないため、ハローワークや別の相談窓口の紹介等を行っています。新型コロナウイルス感染症の拡大により各国で入国制限等が行われる中、帰国困難に伴う在留資格についての問合せも多くありました。

今年度は新型コロナウイルス感染症や令和2年7月豪雨災害等、大きな災害に立て続けに見舞われましたが、このような非常時における情報を多言語で発信する役割もサポートセンターが担っています。また、外国人住民に係る市町村等からの相談対応も行っています。

令和2年7月豪雨災害の際は、発災直後から、各自治体が発出する給水情報や罹災証明書の手続き等、支援に係わる情報を翻訳し、Facebook等を活用した情報発信を行いました。

新型コロナウイルス感染症に関しては、県内の感染状況や感染症リスクレベルの情報、経済的支援策の情報を日々サポートセンターのサイトに掲載しています。サイトに掲載した内容はFacebookを通じて拡散し、より多くの人の目に留まるよう努めています。

これからも当センターでは、関係機関と連携しながら、より外国人の方々にとって利用しやすい相談窓口となるよう努めてまいります。



【相談内訳】

●相談者国籍（上位3位）	●在留資格（上位3位）	●相談内容（上位3位）
日本(※) 237人	家族滞在 77人	雇用・労働 74件
ベトナム 220人	技能実習 67人	通訳・翻訳 69件
欧米諸国 53人	日本人の配偶者等 49人	入管手続 62件

※相談者は日本人だが、内容は外国人に係る相談



令和2年度熊本県国際協会総会の開催について

昨年は、世界中が新型コロナウイルス感染症の深刻な影響を受け、対応に苦闘し、そして、叡智を絞って乗り越えようと努力を積み重ねた1年でした。

当協会においても、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、感染拡大防止の観点より、令和2年度熊本県国際協会総会を2020年6月8日書面議決にて開催いたしました。会員団体94団体に書面表決書を送り、過半数の67団体から回答が得られました。議案につきまして、原案どおり承認されました。

書面開催という初の試みでしたが、無事に総会を終えることができました。

令和2年度国際事業部会事業提案会について

新型コロナウイルス感染症の深刻な影響で活動が難しい中ではありましたが、2020年8月28日に国際事業部会事業提案会を開催し、NPO法人熊本YWCAの提案事業が採択されました。

令和2年度熊本県国際協会会員連携活動助成事業について

県内の新型コロナウイルス感染状況を鑑みて、毎年会員同士の交流の場にもなる熊本国際交流祭典の開催を中止することを受け、国際事業部会から、With コロナの中で新しい活動方法を模索するため、会員同士が連携して行う国際交流事業等に対し、その経費の一部の助成を行うという提案がありました。理事会の審議を経て、「令和2年度熊本県国際協会会員連携活動助成事業」として実施することとなり、令和2年10月26日に提案審査会を開催。新型コロナウイルスの影響で困窮する留学生などの支援につながるような活動や、“With コロナ”下の多文化共生につながる情報発信、オンラインツールを活用する国際交流活動など、以下の4つの事業が採択されました。

採択事業名	主催団体名	連携団体
サイクリングで国際交流 ～ go to country by bicycle	MATE インターナショナル倶楽部	甲佐町国際交流協会、 (一財)熊本市国際交流振興事業団、 NPO 法人 YWCA、(公財)熊本 YMCA
第28回「アフリカの子どもの日」 in Kumamoto	熊本県ユニセフ協会	熊本青年会議所 熊本県青年海外協力協会
令和2年度日本文化体験事業	(一財)熊本市国際交流振興事業団	日本現代和装研究会
色々な国の料理を楽しもう！ 熊本 YWCA ワールド・カフェ	NPO 法人 熊本 YWCA	熊本アイルランド協会



人吉・大柿地区と世界をつなぐプロジェクト 熊本YWCA

熊本YWCAでは、昨年7月の県南部豪雨災害の発生直後から、主に人吉市で物資の支援、被災家屋の片付けなどの活動を行っています。

熊本市内での物資仕分けや被災地でのボランティアには、留学生や県内の学校で活動するALT（外国語指導助手）の先生方にも参加してもらっています。

ボランティアにとっては、被災地の現状を知り、社会とつながる機会にもなっています。支援を受けられる被災者の方も、「そんなに遠くから来たとね!」と喜ばれることが多いです。

ある時は、インドネシアから来たムスリムのALTの先生が、泥だらけになった仏壇をきれいに磨いてくれました。宗教は違っても、信仰の対象を大事にする気持ちには通じるものがあったのか、仏壇の持ち主の方とお話する姿が印象的でした。

10月には、人吉市大柿地区の竹細工職人さんから、「いつも来てくれる皆さんにお返しをしたい」との申し出をいただき、竹細工を習うクラフトデーを開催しました。クラフトデーでは、水害を生き残った新米をお釜で炊いていただきました。



餅つき大会の集合写真



クラフトデーの様子



仏壇を磨いているボランティア

12月には同じく大柿地区でもちつき大会も開催し、ボランティアの皆さんに日本文化に触れてもらう良い機会にもなりました。

大柿地区は水害の被害が大きく、まだまだ復興には時間がかかると感じています。私たちは復興支援の中で、こうした人と人をつなぐ活動、また大柿地区と世界をつなぐ活動を引き続き行っていきたいと思います。

サイクリングで国際交流 MATE インターナショナル倶楽部

「I'm feeling great ♥」心地よい風を受け、軽やかにペダルを踏みながら彼らは言いました。彼ら参加者は2年～10年間在熊のベトナム、アメリカ、カナダ、フランスやインドネシアからの留学生、ALT、社会人です。

この企画に至ったのは、コロナ禍の中、在住外国人たちが『日本人と疎遠になり孤独を感じる!』声が多くなった事。一方、甲佐町国際交流協会から町の魅力を外国人の方にも紹介したいという要望があり、MATEメンバーの自転車愛好会とのマッチングが成立し、連帯団体の協力を得て実施へ繋がりました。

コースは国際交流会館を出発して、緑川河川敷で休息し甲佐町へ。

町役場 ALTのプレストンさんの協力を得て甲佐町案内役を



熊本市国際交流会館を出発



古民家再利用のNIPPONIAの説明

して頂き大変楽しかったです。2件の古民家リフォームでは宿泊施設『疏水の郷』（五右衛門風呂と寝室がユニーク）とフレンチレストランNIPPONIA（古風でエレガントな雰囲気）を見学したのですが、伝統文化の魅力、田舎の楽しみ方等知識が豊富です。プレストンさんは甲佐町をこよなく愛してらして、町民からも好感を持たれるのが私達に伝わり、彼と知り合えたのは参加者にもとても嬉しい成果でした。

その後は彼らから紹介を受けた友人達が甲佐町を訪れて熊本のPRに役だっています。又、甲佐古民家プロジェクトチームの方が益城町の同チームを紹介して下さり新たな進展を期待しています。

参加者のフランス人が、『ナーバスになっていた僕を心配したアメリカ在住の友人がネットでこの企画を知って、「君は是非参加すべきだ」と言った。今、すごく健康的な自分を感じるよ!』と話してくれたことが脳裏に焼き付いています。コロナで人々の距離は縮まないけれどアイコンタクト等で気持ちの交流は広がっていかなくてはと思いますね。

甲佐町国際交流協会はコロナ対策での企画に自信が付いたようで、連帯団体の得意分野を活かして協力した結果、新しい発展へ繋がる効果となり今後の活性化が期待され嬉しく思いました。

MATE インターナショナル倶楽部 酒井 陽子



「第28回アフリカの子どもの日」 in Kumamoto 熊本県ユニセフ協会

熊本県ユニセフ協会が毎年行ってきた「アフリカの子どもの日」は、今年度は新型コロナウイルスの影響を受け、2020年12月6日(日)13:00～16:00に熊本大学工学部100周年記念館をメイン会場とし各地の参加者をZOOMで繋ぐハイブリッド形式のシンポジウムとなりました(写真右)。

シンポジウムを開催するにあたって、事前に5回の準備会がZOOMやユニセフ事務局で開き、岡留恒健さんの本をテキストとして学んだこと、見つかった課題、自分たちに出来ることを自発的に役割分担した高校生の中かで熱心に話し合われました。

当日のシンポジウムでは「地球温暖化の危機に具体的な対策を」というテーマで、環境(Environment)、経済(Economy)、教育(Education)の3つの視点からSDGsを踏まえて意見交換が行われました。

ガーナ、ルワンダ、東京からコメンテーターの先生方や留学生が高校生とZOOMで繋がり、同時通訳を入れての会場は、白熱した意見で盛り上がり高校生にとって多くの学びの場となりました。

ここで発表された共同宣言を知事や市長に表敬訪問して届ける機会に恵まれ、そこで知事や市長と直接話をさせていただいたことはとても良い経験だったと思います。

熊本の高校生が、真剣に自分たちの未来を考え、作り上げていくという強い意志が表れていてとても頼もしく感じました。

熊本県ユニセフ協会運営委員 杉光 啓子



知事表敬の様子



人物紹介

Person introduction

今回は、熊本観光交流政策課のメリー・ニーヴ国際交流員にお話を伺いました。

一まずは、日本に来るきっかけを教えてください。

子供の頃から両親に連れてもらい、たくさん旅行に行きましたが、ヨーロッパ以外の国へ行ったことはありませんでした。10歳ぐらいのときに、日本のアニメに興味を持つ友達がいいて、様々な日本の文化や簡単な日本語を教えてくださいました。その影響もあり、大学の学部は日本語学部に決めました。当時は、自分が日本に住んで働くとは考えられませんでした。そして、大学2年生になる前の夏休みに、早稲田大学で6週間の短期日本語集中プログラムに参加し、東京で2か月過ごしました。初めての1人暮らしでもあり、大切な思い出になりました。それから1年後、東京の立教大学に1年間留学しました。その時に出会った人々は大事な友達になり、今世界中に住んでいます。

一故郷はどんなところですか？

私はアイルランドのダブリン州の「Swords」という町から来ています。「Swords」はダブリン市からバスで40分ぐらいのところであり、人口4万人くらいの中世の歴史が多い町です。石のお城が立っています。ダブリン空港は私の町にあるので、海外旅行はしやすいです。

一熊本の印象は？

熊本は都会も自然も身近に経験でき、本当に生活しやすいところだと思います。お店がたくさんあり、人も優しいです。熊本の豚骨ラーメンが大好きで、できれば毎日ラーメンを食べたいくらいです。

一休日はどのように過ごしますか？

ドライブが好きなので、晴れた日には一番好きな阿蘇に行きます。アイルランドには大きい山も火山もありますが、地質学者の祖父に、火山や地震の話聞いて育ちました。自分の目で阿蘇を見て、自然がどれほど素晴らしくて怖いのかを感じました。

テレビゲームも好きで、休日だけじゃなく、時々昼休みの時もニンテンドースイッチで遊びます。RPGやファンタジーゲームをよく遊んでいます。

また、夏の天気がいい週末には運動公園でアーチェリーの練習をします。アーチェリーを始めたのは、入学してからですが、大学のサークル以外でも別のクラブに所属するほど好きなスポーツです。新型コロナウイルス感染症が収束したら、熊本のアーチェリー大会に参加したいと思います。



◆◆プロフィール◆◆

出身：アイルランド
年齢：24才
趣味：テレビゲーム、読書
大好物：ラーメン、カレー
特技：アーチェリー

一普段はどんなお仕事していますか？

仕事は、翻訳と通訳以外には、県人会関係の仕事や、災害時外国人支援にかかわる仕事もしています。

また、今年度からは、アニメ・マンガの繋がりを通して熊本の魅力的な点を紹介するインスタグラムを作りました。このアカウントで、英語圏向けの発信をしています。



KUMAMOTO_ANIME

一将来の夢について教えてください。

将来について話すのは少し難しいですが、2・3年間他の国に住んでみたいと思います。視野を広げるために色々な国も旅行して他の文化を経験したいです。最終的には日本に住んでテレビゲームの英訳か動画の英語字幕を作れたらいいと思います。



国の代表選手としてイタリア大会に出場



県だより

News from the prefecture

熊本県は、地域における多文化共生の推進のため、令和3年度、次のような事業の実施を予定しています。



災害時外国人支援体制構築事業

日本で暮らす外国人の方々の中には、台風や地震、水害等の災害になじみがなく、災害発生時どう行動すればいいかわからない場合があります。また、言語や文化の違いから、必要な情報・支援にアクセスできない可能性も高いようです。

さらに、既存の地域コミュニティや支援する側の行政においても、外国人住民が抱える課題への認識がまだ不十分な現状があります。

そこで、以下のような取り組みを実施し、災害時においても、外国人住民が自ら命を守る行動をとり、地域住民の一人として支え合い、適切な支援が行き届くよう、「自助・共助・公助」による支援体制の構築を目指します。

- 外国人住民向けの防災セミナーの開催
- 地域防災訓練への外国人住民の参加促進
- 自治体職員向け災害時外国人支援研修
- 災害時多言語コールセンターの設置



熊本県多文化共生支援事業

●熊本県外国人サポートセンター運営事業

引き続き、在住外国人向けの多言語相談窓口を運営し、生活全般に係る相談対応や、多言語での情報発信に取り組みます。

●熊本県日本語教育普及推進事業

外国人住民向けの地域日本語教室の開設や、日本語教育人材の養成、日本語教育関係者の連携会議開催等を行います。外国人住民が地域社会の一員として受け入れられ、社会生活を日本人とともに営むことができるように、日本語教育が行き届く環境整備を行い、「多文化共生」の推進を図ります。

熊本県外国人サポートセンター 〒862-8570 熊本市中央区水前寺 6-18-1 県庁7階

TEL 080-4275-4489

URL <http://www.kuma-koku.jp/support-center/>

E-mail kuma-support-center@aioros.ocn.ne.jp

開館時間 8:30~17:15

休館日 土日祝日、年末年始（12/29～1/3）

Facebook▶



センターHP▶

